

第 38 回電信電話記念日コンテスト規約

今年も抽選で「USBIF4CW」または「digiaid」が当たります！

※抽選対象は、有効な交信局数が **10 局以上(ジュニア種目参加局は 1 局以上)** の電子ログを提出した参加局です。

※ご意見やご感想とともにサマリーシートの**意見欄に「副賞希望」と明記**してください。

※抽選は、有効な交信局数(チェックログ分も含む)10 局毎に一口(ジュニア種目参加局は 1 局毎に一口)となる抽選口数制で行います。

<はじめに>

電信電話記念日コンテストには、毎回多くのご参加をいただき、主催者一同、心から感謝しております。昨年の第 37 回は木曜日の開催となり、ログ提出局数は 314 局(一般部門: 250 局、NTT 部門: 60 局、チェックログ: 4 局)でした。

また、多くの皆様からドネーションのお申し出をいただき、おかげさまで 5 台の副賞をご用意することができました。さらに、zLog 令和賞として、「zLog guide book 2025(PDF 版)」を抽選で 10 局に贈呈しました(TNX JR8PPG)。今回も引き続きドナーを募集しますので、継続的なご支援を賜りますと幸いです。詳細は、本コンテストの Web ページに掲載の「ドナー募集要領」をご参照ください。

今年の第 38 回は金曜日の開催となりますが、引き続き皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

下記規約をご精読の上、是非本コンテストに奮ってご参加ください。

※年月日のほか、アンダーバー箇所が昨年規約からの主な変更点です。

【沿革・趣旨】

電信電話記念日(10 月 23 日)は、1869 年の同日(旧暦では、明治 2 年 9 月 19 日)に、横浜から東京までの約 32km の区間に電信線架設工事が開始されたことにちなみ、1950 年に当時の電気通信省が制定した記念日です。制定当初は電気通信記念日と称していましたが、1956 年に現在の名称になりました。

日本の電気通信事業は、逓信省から電気通信省を経て、日本電信電話公社と引き継がれ、長らく官営事業として営まれてきましたが、1985 年 4 月 1 日には日本電信電話株式会社(現・NTT 株式会社)が発足し、民営事業へと転換しました。

この電信電話記念日コンテストは、アマチュア無線も含めた電気通信全体の振興を祈念し、民営化 2 年後の 1987 年に NTT 北陸アマチュア無線クラブ(JA9ZNT)が主催して第 1 回が開催されたもので、2008 年の第 20 回以降は NTT 横須賀通研アマチュア無線クラブ(JR1YRI)が主催を引き継ぎ、開催しております。

【主催】

NTT 横須賀通研アマチュア無線クラブ(JR1YRI)

【JARL 登録クラブ:NTT R&D ハムクラブ(11-3-28)】

【開催日時】

(電信電話記念日)2026 年 10 月 23 日(金)18:00~24:00(JST)

(ジュニア種目参加局は 18:00~21:00 の 3 時間)

【参加資格】

日本国内のアマチュア無線局

【使用周波数】

(1)HF(1.9/3.5/7/14/21/28MHz 帯アマチュアバンド)

(2)V・UHF(50/144/430/1200MHz 帯アマチュアバンド)

なお、電信(CW)および電話(AM、SSB、FM)による使用周波数帯は、1.9MHz 帯 (SSB も可)から 430MHz 帯は JARL 主催コンテスト使用周波数帯、1200MHz 帯は 総務省告示の「アマチュア業務に使用する電波の型式及び周波数の使用区別」の指定によるものとする。

【参加部門および種目】

部門		種目		コードナンバー
一般 (注 1)	電信	シングルオペ	HF	GCSH
			V・UHF	GCSV
			オールバンド	GCSA
			ジュニア(注 3)	GCSJ
		マルチオペ	オールバンド	GCMA
	電信電話 (注 2)	シングルオペ	HF	GXSH
			V・UHF	GXSV
			オールバンド	GXSA
			ジュニア(注 3)	GXSJ
		マルチオペ	オールバンド	GXMA
NTT (注 1)	電信	シングルオペ	HF	NCSH
			V・UHF	NCSV
			オールバンド	NCSA
			ジュニア(注 3)	NCSJ
		マルチオペ	オールバンド	NCMA
	電信電話 (注 2)	シングルオペ	HF	NXSH
			V・UHF	NXSV
			オールバンド	NXSA
			ジュニア(注 3)	NXSJ
		マルチオペ	オールバンド	NXMA

(注 1)オペレータが NTT グループ各社の社員、OB、およびその家族のみで構成される参加局(シングルオペ局、マルチオペ局の如何を問いません。以下、NTT グループ局と総称します。)は、NTT 電信部門および NTT 電信電話部門に、NTT グループ局以外の局は一般電信部門および一般電信電話部門に参加できます。

(参考) NTT グループ各社の最新の一覧は、NTT のホームページでご確認いただけます。(https://group.ntt.jp/group/gnavi/syllabary_order.html)

なお NTT グループ各社は、日本電信電話公社を起点とし、日本電信電話株式会社(現・NTT 株式会社)を中心とした NTT グループ企業であり、上記に掲載の他、商号変更、解散や合併などにより消滅した会社も含まれます。

(注 2)電信電話部門は、「電信および電話」または「電話」によるものとします。

(注 3)ジュニア種目は、オペレータの年齢が 18 歳以下の場合にのみエントリーできるものとし、オールバンド種目と同様に「使用周波数」に記載の任意のバンドで運

用することとします。

【交信方法】

(呼び出し)

電信:「CQ NTT TEST」「CQ TEST」

電話:「CQ NTT コンテスト」「CQ コンテスト」

(コンテストナンバーの交換)(注 4、注 5、注 6、注 7)

「RST 符号による相手局のシグナルレポート」+「下記に示す(1)から(3)の電気通信番号の内のいずれか 1 つ」+「N(NTT グループ局のみ付加)」

<電気通信番号>

(1)運用場所における固定電話の市外局番(先頭の 0 を含む 2～5 桁)

(例)03、046、076、0422 など

(2)運用場所で行っている IP 電話の電話番号の上位 3 桁(050)

(3)運用場所で行っている携帯電話の電話番号の上位 3 桁(070、080、090 の内のいずれか 1 つ)

(注 4)参加局は送信する電気通信番号として上記(1)～(3)の中からいずれか 1 つを選択するものとし、コンテスト中における番号の変更は認めません。

(注 5)マルチオペ局は、すべてのオペレータが同一の電気通信番号を用いるものとします。

(注 6)市外局番割り当てのある IP 電話(「ひかり電話」など)の電気通信番号は市外局番を用いるものとします。

(注 7)NTT グループ局が電信でナンバーを送る場合は、送信ナンバーの最後の「N」を数字の「9」と混同しないように、「N」の前に「/」を挿入してください。(例)「599046/N」

(参考)市外局番などの電気通信番号の指定状況は、総務省のホームページなどでご確認いただけます。(https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/top/tel_number/number_shitei.html)

(複数の運用場所からのコンテスト参加)(注 8、注 9)(別表 1)

(1)電気通信番号として 050、070、080、090 のいずれかを送信するシングルオペ局については、コンテスト中における運用場所の移動、変更を認めます。

(2)上記(1)以外の局は、常置場所以外に移動しての運用は可能ですが、コンテスト中における運用場所の移動、変更は認めません。

(注 8)なお、常置場所以外に移動して運用している局は、コールサインの後に移動先のコールエリアを示す番号などを送出してください。(例)JR1YRI/9(電信の場合)、JR1YRI ポータブル 9(電話の場合)

(注 9)なお、常置場所以外の 1 箇所にものみ移動して運用する局は、コンテストナンバーとして使用する電気通信番号として、上記「コンテストナンバーの交換」項に記載の(1)～(3)の内のいずれか 1 つを用いることができます。

【得点およびマルチプレイヤー】

(得点)

(1)コンテストナンバーの交換を完全に行った NTT グループ局との交信を 2 点、NTT グループ局以外との交信を 1 点とする。

(2)ただし同一バンド内における同一局との重複交信は、たとえ自局あるいは相手

局の運用場所や電波の型式が異なっていた場合であっても、1 交信のみを得点とし、それ以外は 0 点とします。

(マルチプレイヤー)

コンテストナンバー交換を完全に行った相手局から受信した異なる電気通信番号。

【総得点の計算】

各部門種目共に、「各バンドにおける得点の和」×「各バンドで得たマルチプレイヤー数の和」を総得点とする。

【交信上の禁止事項】

- (1) コンテスト中における送信する電気通信番号の変更
- (2) マルチオペ局の複数地点からの運用
- (3) コンテスト中の運用場所の変更(電気通信番号として 050、070、080、090 のいずれかを送信するシングルオペ局を除く)

【ログ提出】

- (1) NTT R&D ハムクラブの WEB サイトで公開している「電子ログ提出」ページから、JARL 主催コンテストにおける所定の様式で作成した電子ログ (https://www.jarl.org/Japanese/1_Tanoshimo/1-1_Contest/logformat.html) を提出してください。
- (2) 上記(1)の電子ログのみを受け付けることとし、郵送によるログ提出は受け付けません。
- (3) ログはいずれか 1 つの部門種目に提出してください。なおコンテストの審査対象とすることを希望しない交信については、チェックログとしての提出を推奨します(チェックログ希望分は、サマリーシートの意見欄にその旨を明記してください)。全ての交信をチェックログとして提出する場合は、参加部門種目コードナンバー欄(<CATEGORYCODE>)に CHECKLOG と記載してください。
- (4) 同一オペレータが複数の参加局の間で掛け持ち運用を行った場合、1 つの参加局からのみ審査対象ログを提出してください。
- (5) 常置場所以外に移動して運用した場合、運用場所が属するコールエリアをコールサイン欄に明記してください。なお本規定に従って運用場所を複数のコールエリアにまたがって移動、変更した局は、すべてのコールエリアを意見欄に列挙してください。
- (6) シングルオペジュニア種目の場合、年齢を意見欄に明記してください。マルチオペオールバンド種目の場合、全オペレータのコールサイン(コールサインがない場合はフルネーム)をオペリスト欄(<MULTIOPLIST>)に記入してください。
- (7) コンテストに対する皆様からのご意見やご感想もサマリーシートの意見欄に是非お書きください。後日結果発表時にコンテストコメント集として取りまとめて公表させていただくとともに、今後のコンテスト運営に活かさせていただきます。
- (8) 提出締切日:2026 年 11 月 3 日(祝)(電子ログ到着)
- (9) 提出先

WEB 提出:「電子ログ提出」ページ

<https://www.jarl.com/nttrd/denden-test/logupload.html>

【賞】

- (1) すべての部門種別毎に参加局数の 10%以内(小数点以下切り上げ)でかつ最大 8 位までの順位の局に賞状を贈ります。
- (2) 上記(1)に加え、各部門ともシングルオペ V・UHF 種目とシングルオペジュニア種目で

は、運用場所のコールエリア毎に参加局を区分した範囲でも、上記(1)を適用します。
ただし、重複して賞を贈る局の賞状は1枚にまとめる場合があります。

(3)コンテスト中において本規約に従って2つ以上のコールエリアにまたがって運用場所を移動、変更して運用した参加局は上記(2)の対象外とします。

(4)有効な交信局数が10局以上(ジュニア種目参加局は1局以上)の電子ログを提出した参加局の内、副賞を希望する局の中から抽選で、CW用インターフェース USBIF4CW 完成品、または FT8 等のデジタルモード用インターフェース digiaid 完成品のいずれかをドナーの数に応じた局数に贈呈します。抽選は、有効な交信局数(チェックログ分も含む)10局毎に一口(ジュニア種目参加局は1局毎に一口)となる抽選口数制で行いますので、交信局数が多いほど副賞当選確率が上がります。なお、副賞希望局はサマリーシートの意見欄に、ご意見やご感想とともに「副賞希望」と明記してください。

【失格事項】

(1)本規約に定める事項に違反した場合

(2)その他 JARL 主催コンテスト規約に準ずる失格事項

【結果発表】

(1)2026年12月頃に NTT R&D ハムクラブの WEB サイトで公表します。

(2)ログ提出局には、電子メールで結果発表をお知らせします。

【その他】

本規約に明記なき事項については JARL 主催コンテスト規約に準ずるものとします。

本規約や過去のコンテスト結果、および本コンテストに対応可能なコンテストロギングソフト zLog の設定方法、設定に必要な CFG、DAT ファイルを、NTT R&D ハムクラブの WEB サイト(<https://www.jarl.com/nttrd/>)にて公開しておりますので、是非ご活用ください。

(別表 1) 送信する電気通信番号と運用場所の変更可能条件の対応

送信する電気通信番号			電気通信番号の変更	コンテスト中の運用場所の変更
運用場所における	固定電話の市外局番	03、046、076、 0422 など	不可	不可
運用場所 で 利用している	IP 電話の電話番号の 上位 3 桁	050	不可	シングルオペ局: 可 マルチオペ局: 不可
	携帯電話の電話番号の 上位 3 桁	070、080、090	不可	

マルチオペ局は、すべてのオペレータが同一の電気通信番号を用いるものとします。